

# 久納会計 FAX ニュース



Kunoh Accounting Office  
久納公認会計士事務所

## 2023年1月号 今年はどうなる

少々遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。今回のテーマは例年通り、干支から考える今年の予想です。ちなみに今年の干支は癸卯（みずのと・うさぎ）です。

### 「癸」と「卯」の意味

まず「癸（みずのと）」ですが、十干の最後で、甲（きのえ）から始まった10年が一巡する年になります。「癸」は「揆」であり、「物事をはかる」の意味となります。物事を測るには標準・原則が必要で、それゆえ「則（のり）」、「道」の意味ともなります。そこで「癸」の意味するところは、筋道を立ててはかる、考える、処理するということにもなります。

また「癸」は象形文字として四方に刃の突き出た「三峰矛」を示しています。それゆえ周囲を一掃し、なぎ倒し、「均（なら）す」という意味も含まれているようです。

次に卯（う）ですが、「ぼう」という音で、茆（かや）・芽と同じ意味となります。これは陽気の衝動・発生であり、草木でいうならば芽や葉がしげるということになり、「茂」に通じます。字形で言えば、無理矢理に門を押し開けた形とし、天門が開いて万物が繁茂するとも解されています。

「卯（うさぎ）」というと「おとなしい」「おだやか」な印象がありますが、この「卯」という字の本当の意味は荒々しいもので、「開かずの扉を無理矢理押し開ける」という意味があるようです。それだけのエネルギーを持った漢字と言えるようです。

### 昨年のふりかえり

昨年のFAXニュースで2022年は「確実に進んでいく年」、「人事に心がける年」とも書きました。

何が進んだのか。思い返してみると、①ロシアのウクライナへの圧力が侵攻へと進んだこと、②習近平国家主席の権力集中、③インフレ・円安の進行、と言えるかもしれません。安倍元首相が銃撃で帰らぬ人となることは全く予想外のことでした。人事の面では、大臣の人選に失敗した岸田総理大臣が、支持率低迷にあえいでいます。

昨年を振り返ってみて、一番の重大事はロシアのウクライナ侵攻です。これにより、世界は激変しました。思い返せば60年前はキューバ危機の年でした。昨年の壬寅（みずのえとら）の年は、そういう世界的な大事件が起こる年なのかもしれません。

株価については、日経平均は9.4%、TOPIXは5%の下落となりました。ウクライナ侵攻もあり、世界的にインフレが進みました。インフレを抑えるために日本以外の先進国の中央銀行が金利を上げた結果、株から債券へノシフトが進んだこと、株のようなリスク資産からの逃避が進んだことなどで、海外は日本よりも大幅な下落となりました。

### 60年前の出来事

次に、同じ干支であった60年前と120年前の出来事を見てみましょう。

60年前は西暦1963年（昭和38年）になります。この年は荒れた印象です。日本国内では三井三池炭鉱で炭塵爆発があり、458人が死亡する大惨事がありました。その他にも、豪雪により都市機能が完全に麻痺、赤痢などで1月2月の死亡者156人（38豪雪）、沖縄離島連絡船が強風のため転覆、死者

行方不明者112名、東海道線で二重衝突、死者161名（鶴見事故）等があり、力道山がヤクザに刺されて死亡したのもこの年です。

世界的にはケネディ大統領が暗殺された年になります。その他、中国とロシア（ソ連）の対立も激化、ベトナムではベトナム戦争に向けて様々な事件が勃発しました。

## 120年前の出来事

120年前は西暦1903年（明治36年）になります。日本では、日露戦争開戦の前年になります。日露戦争に向けての動きが活発化していました。また、各地で鉄道の建設が進み、日比谷公園の開園など、着実にインフラ建設が進みました。

世界では、ライト兄弟の人類初となる動力による飛行、パナマ運河建設に向けアメリカによるパナマ独立（コロンビアより）もありましたが、大きな災害などは無かったようです。

## 今年は荒れた展開か

さて今年ですが、干支からは少々荒れた展開が予想されます。「癸」も「三峰矛」を表し、周囲を一扫し、なぎ倒し、「均（なら）す」という意味があります。また、「卯」も強引に押し進めるイメージを持っています。60年前からの連想でも、平穏無事なイメージがありません。

昨年からの動きがさらに推し進められるようなことであれば、ロシアのウクライナ侵攻、中国の台湾への圧力は変わらず続くことになるでしょう。日本では4月に日銀の黒田総裁の任期満了となります。次の日銀総裁が誰になり、どのような政策を取るのかによりますが、これまでのようなゼロ金利政策は継続が難しいと予想されています。

株についてですが、コスモ証券のホームページによると卯年の上がり下がりの勝敗は4勝2敗、しかし年間騰落率の平均は16.4%となかなかの好成績です。また癸の年の勝敗は5勝2敗、年間騰落率の平均は11.5%と、こちらもまずまずの成績です。インフレの収束→金利の低下という流れになれば、

株価の上昇は期待できます。しかし、日銀が金利を上げるとなれば、状況は変わってきます。昨年海外よりも株価の下落率が低かったのは、日銀が金利を上げなかったことが一つの理由ということなので、日銀総裁の交代とともに金利を上げるならば、日本株は失速ということになるかもしれません。

## 今年の当事務所の取り組み

当事務所では、これまでと同様、みなさまのお役に立つよう努めて参ります。

今年の10月から消費税のインボイス制度が始まります。まずは、この対応をしっかりとしていきます。

消費税のインボイス制度とは別になりますが、電子インボイスの仕組みが今年導入されます。これは、デジタル庁主導で進められている仕組みですが、各社間の請求・支払のデータ形式を共通化し、どの販売管理システムともデータ交換が出来るようにし、省力化を進めようとするものです。電子インボイスに対応することが、今後の企業活動にとって必須になることも予想されますので、私どもの事務所でもサポートしていきたいと考えております。

残念ながらコロナは消え去りそうもありません。気をつけながらコロナとは付き合っていくしかないようです。日本でも、早くマスクのない生活が出来るようになることを祈ってやみません。

みなさまにとっても、良い年となりますことをお祈りしております。また、お知り合いの方で税理士にお困りの方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介下さい。しっかりと対応させていただきます。

（以上）

## 参考文献

安岡正篤著『干支の活学』（プレジデント社刊）

干支歳時記（越玄さんのホームページ）

各種年表、コスモ証券のホームページ、ウィキペディアなど